



吉原美智恵議員

問 アスベスト被害の状況は

答 国・県の手順を参考に調査

問 昨今、アスベスト被害が深刻な状況であるが、町内の公共施設の調査状況とその結果は。

答 (山口町長)

本町の調査は、国や県が示している手順を参考に、アスベストが使用されている施設を調べている。

今後アスベストを使用した建築物等の解体作業が増加すると思われるが、業者に対して周辺住民の不安解消のため、飛散防止対策の徹底とその周知をどのように指導していくのか。

鉄骨に使用されていることがわかった。このうち所子保育所の機械室は、天井がなく吹き付けアスベストが露出している状態であったので、使用を中止し、アスベスト撤去作業を行うこととしている。

現段階で確認できている施設は、中山小学校給食室の屋根裏側・所子保育所の機械室・名和トレセン玄関車寄せの鉄骨梁・中山環境改善センター・大山環境改善センター屋根の

その他の施設においては、それぞれ天井で囲いこまれ安全な状況であったので引き続き使用することとしている。

その他使用されている可能性の高い年代の施設は、アスベストが使用されていないことを確認した。

また、建築物等の解体については、県等の関係機関と連携をとり業者等の指導にあたっていく。



検査の結果、アスベストは使用されていなかった(所子保育所の機械室)

問 学級編成基準の見直し

答 教育内容の充実を

問 文部科学省の調査研究協力者会議は8月8日、基準引き下げを断念し、学校や市町村教委の裁量を広げるとする中間報告案をまとめた。このことについての基本的な考えは。

段階である。一人の先生がかかわるより、加配教員という形で複数の先生が一つの学級にかかわって学習効果を上げるという方式が適切ではないかと思っている。

成果を注目され、新聞等でも何度も取り上げられて来ている。大山町でこの授業に取り組み考えはないか。

答 (山田教育長)

先生の実践されている授業は人とかかわりを持つなかで、人間性を育てることを強く訴えられ、多くの関係者が高く評価していると承知している。

問 コミュニケーション授業の取り組みを

答 今後、検討していく

大山町でも総合学習等で子ども達の豊かな人間性を育成している。コミュニケーション授業によって不登校等の改善がはかられた事例もあり、今後授業として行う場合、学校長が教育課程を編成していくので、そのあたりの情報として今後対応し、検討していきたい。

答 (山田教育長)

現在、町では30人学級を達成して教育を充実するということは既に達成され、教育の興味をどうするかという

問 議員研修で鳥大医学部助教教授の高塚人志先生のコミュニケーション授業の講演を聴かせて頂く機会を得た。

旧赤碓高校で実践され、今や全国からその